



早稲田大学では、これからの時代に必要となる新たな教師の学びの機会として「現職教員向け研修講座」を開講します。現職教員(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校)の方であればどなたでも申込可能です。卒業大学は問いません。

新たな現職教師の学び

早稲田大学教員研修講座

—新しい時代の教育と教科指導—



1903年の高等師範部設置以来、120年を超える教員養成の伝統を受け継ぐ早稲田大学教育・総合科学学術院が提供する教員研修講座です。

受付中!!

■日時: 2025年8月23日(土) 13:00~14:30

■会場: 早稲田大学 早稲田キャンパス
(会場の詳細は参加者に別途お知らせします)

■内容: 以下の2講座から1つを選択 詳細は裏面をご覧ください
「教員のメンタルヘルス」
「今さら聞けない中学校・高等学校国語科教員の教材研究」

■受講料: 1,000円 (税込 資料代となります。納入方法は参加者に別途お知らせします また、返金はいたしません)

■申込期間: 5月1日(木)~7月31日(木)

■申込方法: 右のQRコードまたは下記のURLより
お申込ください

<https://x.gd/sOrPQ>



教職支援センターWEBサイト



早稲田大学 教職支援センター

お問い合わせ <https://www.waseda.jp/fedu/tec/contact>

東京都新宿区西早稲田1-6-1

電話 03-3232-3599

2025年度 早稲田大学教員研修講座 概要

■ 8月23日(土)13:00～14:30 (90分予定)

■ 下記 2講座から1つをお選びください

講座① 教員のメンタルヘルス

【講師】堀 正士 (教育・総合科学学術院教授)

教員を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。それを反映して、教員の精神疾患による病気休職者の数はここ数年増加傾向にあり、2023年度はついに7,000人を上回りました。

教員のストレス増加の背景には、学校運営や事務作業など業務量の増加、職場の人間関係、生徒指導対応の困難さなどが考えられます。

文部科学省は教員数の増加、専門的人材の配置、支援スタッフの充実などを急務の課題であるとしています。しかし、これらは一朝一夕に変わることのない問題でもあります。

では、現場においてどのような対応が考えられるでしょうか。メンタル不調の予防について現在できることは何かを皆さんとともに考えていきたいと思います。

今さら聞けない

講座② 中学校・高等学校国語科教員の教材研究

【講師】菊野 雅之 (教育・総合科学学術院教授)

中学校・高等学校国語科教員を主とした対象とした講座となります。

(小学校の先生方も受講を妨げるものではありませんが、扱う内容は中学校・高等学校がメインとなることはご理解ください。)

教材研究と一口で言っても、その範囲は多岐に渡ります。

例えば、文学や説明文の作品研究・素材研究の段階から、発問や言語活動の設定、単元全体の設計の仕方、学習目標と教材の関係の把握などがあります。

それ以外にも、国語科に関わる学術書、専門書、専門雑誌、教材になりそうな文章の発掘なども広い意味で教材研究に入ってくるでしょう。

なるべく多くのテーマ、観点に触れつつ、先生方の今後の教材研究にお役に立つであろう知見や情報を提供したいと考えております。

■ 右のQRコード、または下記のURLよりお申込みください

<https://x.gd/sOrPQ>

